

## 新着案内



『幕末の宙』 齊藤 洋/作 高畠 純/画 偕成社 T/サヒ
『ぼくら×怪盗レッド VRパークで危機一髪!?!の巻』 宗田 理・秋木 真/作 KADOKAWA T/ソオ
『アリゲーターガーは、月を見る』 山本 悦子/著 理論社 T/ヤエ
『13歳からのプログラミング発展マイクラフト&Pythonで学ぶ画像加工・アルゴリズム・自作AI』 山口 由美/著 メイツユニバーサルコンテンツ T007/ヤユ
『通信制高校があるじゃん! 2026~2027年版』 学びリンク T376/ツウ
『いちばんやさしい地学の授業 46億年前から100年先までの地球が見渡せる』 溝渕 隼也/著 大和出版 T450/ミシ
『かぎ針で編むブライスのファッションブック 13dolls』 日本ヴォーグ社 T594/カキ
『Mrs.GREEN APPLE YEAR BOOK 2025』 Mrs.GREEN APPLE/著 ぴあ T764/ミセ
『小学生でもできる言語化』 田丸 雅智/著 ダイヤモンド社 T816/タマ
『テメレア戦記』9 ドラゴン同盟 ナオミ ノヴィク/著 静山社 TF/ノナ
『ノアハム・ガーデンズの家』 ペネロピ ライヴリー/著 ゴブリン書房 TF/ラヒ
『チーム・テスならだいじょうぶ』 カービー ラーソン・クイン ワイアット/作 鈴木出版 TF/ラカ



## ティーンズのココロ通信

令和8年6月1日 発行

Eメール : [info@lib-yama.jp](mailto:info@lib-yama.jp)

HP : <https://www.lib-yama.jp>

山口市立中央図書館

270 号

〒753-0075 山口市中園町7-7

TEL : 083-901-1040

FAX : 083-901-1144



# 音楽



音楽は好きですか?  
 どんな音楽を聴きますか?  
 クラシック、ジャズ、J-POP、ロック…  
 気持ちが落ち込んだ時、楽しくてワクワクする時、音楽が  
 寄り添ってくれる気がします。  
 今月のココロ通信のテーマは「音楽」です。  
 音楽に関する本をお届けします。



●『はなの街オペラ』

森川 成美／作                      くもん出版                      T／モシ

東京へ奉公に出ているはなは、ひょんなことから奉公先の主人が主宰する歌劇団に入団することになりました。慣れない環境に最初はとまどっていましたが、子供の頃から歌うことが大好きだったはなは、どんどんオペラに夢中になっていきます。仲間の退団や家族との軋轢<sup>あつれき</sup>など様々な困難がはなを襲いますが、努力を続けていきました。そんな時、東京を関東大震災が襲います。音楽の力を信じ、諦めず逆境に立ち向かう人々の姿を描いた物語。                      (S.E)

●『おじさんのかさ』

佐野 洋子／作・絵                      講談社                      E／サヨ

おじさんは立派な傘を濡らさないため、雨が降っても決して開きません。ところがある日も子どもたちが「あめがふったらポンポロン、あめがふったらピッチャンチャン」と歌いながら傘を楽しそうにさしている姿を見て、ついに大切なそれを広げるのです。傘が雨粒を弾く音や水たまりの水が撥ねる音に嬉しくなる彼の様子からは新しい世界の広がる喜びが伝わってきます。雨が多くなる6月、ぜひ空からの雫が奏でる音楽に耳を澄ましてみてください。                      (R.S)

●『拝啓パンクスノットデッドさま』

石川 宏千花／作                      くもん出版                      T／イヒ

ハイスタはパンクか否か。そんな論争をSNSで見たとき、たまたま目にしたこの小説。なんと今やパンクは中高年しか聞かないらしい。そんなパンクにハマった高校生の晴己<sup>はるみ</sup>は、時代遅れだろうがなんだろうが、ベースでパンクをかき鳴らしているときだけが生きている実感を得られる唯一の時間だった。何もかも諦めたかのように生きる晴己の感情が音楽を通しあふれ出すさまには思わずこみ上げるものがある。魂を震わす音楽にパンクか否かなど関係ない。(ハイスタが気になった方はお調べください。)                      (M.K)

●『学校では教えてくれない人生を変える音楽』

雨宮 処凜 他／著                      河出書房新社                      T 760／カツ

この曲を聴くとあの頃を思い出す、といった音楽がおそらく皆さんにもあるのではないのでしょうか。そんな思い出と曲について著名人たちが熱く語るガイドブックです。音楽への想いが綴られた文章が中心となっており、読み応えのある1冊となっています。中には作家さんも多く、その音楽を通じて作品の解像度<sup>しんさん</sup>があがる気がします。音楽を聴きながらその作品に触れてみたいですね。辛酸なめ子さんと角田光代<sup>かくたみつよ</sup>さんの章が特にお気に入りです。                      (S.E)

●『羊と鋼の森』

宮下 奈都／著                      文藝春秋                      /ミナ

高2の時に主人公はふとした縁からピアノ調律師板鳥<sup>いたどり</sup>と出逢います。故郷の森のイメージが浮かんでくる音に魅了されて、調律師を目指し、やがて楽器店へ就職。先輩の柳<sup>やなぎ</sup>、顧客の佐倉家<sup>さくら</sup>ふたご等、まわりの人との交流を深める中で成長していく姿が印象的です。「羊と鋼」はピアノの構成要素。異なる質感の両者が融合しているさまは、温かくも凜とした文体に通ずるように思えます。そして「森」はピアノが見せた原風景でもあり、調律師の奥深い世界でもあるのです。                      (R.S)

●『ユニコーンレターストーリー』

北澤 平祐／著                      ホーム社                      /キハ

ハルカと同じ日に生まれたミチオ。小さいときからお誕生日会も一緒、ピアノのレッスンも一緒、入園式、入学式も一緒。最近では学校ではあまり話をしないみたいだけど……。6年生でミチオがアメリカに引っ越したところから始まるハルカとの往復書簡。慣れない海外生活でミチオを救ったのは、オススメの音楽や何気ない日常を伝え合うハルカとの文通だった。18歳まで続く二人のやりとりを北澤平祐<sup>きたざわへいすけ</sup>さんのかわいいイラストで綴ったちょっぴり切ない物語。                      (M.K)